

43 王 徳稔さん
中国 1997年生まれ



①有名な国際コンクールなので出場したいと思いました。また、ファイナルまでに協奏曲を3曲弾けるところが良い経験になったからです。

②敏感なところがあり、嫌な音を出したくないのでそれが音楽に反映するかもしれません。作曲家が曲に込めている繊細な面が読み取れているといいと思います。

③もっと上手くなって聴衆に音楽を伝えられるようになりたいです。また、いろいろな人と音楽を演奏していい音楽を届けられるようになりたいです。

☆日本語でインタビューに答えてくれました

40 辻本 莉果子さん
日本 1998年生まれ



①ドイツに留学中で、日本で演奏する機会を得たかったから。世界的音楽家の審査委員の先生方に演奏を聴いていただき、フィードバックをもらえる貴重な機会ということも理由です。

②自分は感情爆発型で気性が激しい方なので、その個性が人間味のひとつとして出ること強みですが、反面それが悪く出てしまうこともあります。

③留学先で毎週素晴らしいレッスンを受けられるのでそれが今の生きがいになっています。今後も今の先生のもとでもっと勉強を続けたいと思っています。納得できるまで勉強したあと日本に戻り、学んだことを指導や演奏に生かしていきたいです。

03 クラウディオ・ベツラさん
イタリア 1997年生まれ



①何年も前からSIMCのことを聞いていて、日本が好きだったこと、音楽への関心が高い人々の中で開催されるコンクールということ出場したかったから。

②様々な年代の多様な作品に対応し、弾き分けられること。予選プログラムでは、スカララッチィからアルベニスまで年代のバラエティに富んだ選曲で、それぞれ違う特徴が出るよう演奏しました。

③音楽を教えていきたいのと同時に、レパートリーももっと増やし、いろいろな音楽家とのアンサンブルも楽しみたいです。そして日本にもまた来たいです。

33 リュ・ジュンヒョンさん
韓国 2001年生まれ



①韓国から一番近い国であること、協奏曲3曲もレパートリーに入れられることに魅力を感じました。

②男性的な力強い演奏ができるのと同時に、敏感なセンスも持ち合わせているところです。

③できるだけ多くの人前で演奏する機会を持ち、インスピレーションを感じてもらえればと思います。また多様なレパートリーの曲を勉強するほか、ピアノ以外の音楽についての知識も深めたいです。

01 天野 薫さん
日本 2013年生まれ



①数々の素晴らしいピアニストが過去に出場しているので、いつか出たいと思っていたところ、先生に勧められて応募しました。

②モーツァルトが好きで、いろいろなタッチでの演奏が出来るようにがんばります。

③いろいろな人たちから素敵だなと思ってもらえるピアニストになりたいです。

31 大山 桃暖さん
日本 2005年生まれ



①オーケストラとの協奏曲がたくさん演奏できること、広い舞台上で弾けるから。

②リズムカルな曲が好きで得意です。3歳の頃クラシックバレエを習っていましたが、予選でのストラヴィンスキーのペトルーシュカはバレエ音楽で、バレエのリズム感を出せたと思います。

③今回の反省を次に生かしていきたいです。

SENDAI INTERNATIONAL MUSIC COMPETITION
for Violin & Piano



仙台国際音楽コンクールニュース

コンチェルト
Concerto



第9回仙台国際音楽コンクール
ヴァイオリン部門：2025年5月24日(土)～6月8日(日)
ピアノ部門：2025年6月14日(土)～6月29日(日)

Vol.9-5
(2025.6.19 第9回コンクール関連 第5号)

コンクール出場者の皆さんに聞きました
ピアノ部門編

- ①仙台国際音楽コンクール (SIMC) に出場を決めた理由は何ですか
- ②あなたの演奏の個性や強みは何ですか
- ③今後の目標を教えてください

34 佐川 和冴さん
日本 1998年生まれ



①日本で開催されるメジャーな国際コンクールに出場したかったから。

②自分のパーソナリティ的に明るいき生きとした演奏が前面に出ると思いますが、予選はその中でも古典のハイドン・近現代のドビュッシー・ロマン派のブームスとキャラクターが分かれた曲を演奏して、コントラストや自分の色が出る演奏を心掛けました。

③コンクールは基本的に30歳くらいまでの年齢制限があるので、受けられるコンクールが限られてきていますが、演奏活動やコンクールを通して人として、音楽も成熟できるように頑張っていきます。

23 イ・セボンさん
韓国 1996年生まれ



①第8回に出場して、いい思い出がたくさんあったし、他のコンクールと違い、オーケストラと共演できる機会があるからです。

②個性というか、演奏スタイルとしては作曲家の意図をきちんと楽譜を見て学び、その後自分がやりたいことをやっています。自分では個性はあまりわかりませんが、時々周りからいい意味でイカれてる、と言われたりしてちょっと恥ずかしいです(笑)。

③ドイツ在住なので、今後ドイツの生徒たちに教えながら演奏もしていきたいです。

☆日本語でインタビューに答えてくれました

13 ロベルト・ルメノフさん
ブルガリア 2000年生まれ



①5年ほど前から日本に来たいと思っていて、来日できる機会を探していたのでSIMCにエントリーしました。

②自分自身で個性や強みを捉えるのは難しいですが、目指す演奏としては正直で誠実な演奏をしたいです。

③世界中で演奏会をして、もっと上手になりたいと思います。

☆尊敬するピアニストのひとりとしてゴジャ・ワンを挙げられたので、彼女が第1回SIMCの入賞者と伝えると驚いていました。

22 ラウ・シンホさん
香港 1998年生まれ



①長年このコンクールを知っていますが、審査委員も公平で素晴らしい人々だと思います。

②予選は集中して弾けました。ピアノも良かったです。正直なところすごく好きな曲だったけれど深く解釈できていない箇所もありました。

③コンサートを通じて皆さんに音楽の素晴らしさを共有したい。ピアノを教える立場になったとしても、演奏することをやめないと思います。

発行：第9回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア

[コンクール公式 X (旧Twitter)] @sendai_simc

[ボランティアブログ X (旧Twitter)] @simc_volblog

問合せ：仙台市民文化事業団音楽振興課(仙台国際音楽コンクール事務局) Tel: 022-727-1872 / e-mail: info@simc.jp / URL: https://simc.jp

19 岸本 隆之介さん
日本 2002年生まれ



①協奏曲の演奏経験が無いので、協奏曲を全楽章演奏する機会を得たいと思い、出場を決めました。

②誰よりも感情を込めて演奏できるところが強みだと考えています。楽譜を読み込み工夫して演奏する方は多くいらっしゃいますが、私はさらに自分の感情を咀嚼して音に込めて演奏できるところが強みです。

③音楽を深く愛し続けることです。自分の気持ちだけでなく演奏を聴いてくださる全ての人の心と交信するような演奏を目指したいです。

06 デイヴィッド・チョエさん
アメリカ/韓国 2007年生まれ



①たくさんの方がSIMCを勧めてくれ、また自分ももっと経験を積みたいと考えたので出場を決めました。今回2回目の来日で、初来日は昨年開催された浜松国際ピアノコンクールへの出場でした。

②自分が感じたことをより深く表現したいと思っています。また、自分の中に湧き上がってくるものを大切にしたいです。好きな作曲家はシューベルトやシューマンです。

③これからも音楽を追求し、自分らしいものを出せるよう、自分の音や、音楽を求めていきたいと思っています。

14 キム・ドンジュさん
韓国 2004年生まれ



①コンクールで結果を出すことで演奏の機会が得られるからです。たくさんの方のコンクールを調べましたが、その中でSIMCがベストな内容でした。

②ステージで200%の力で自分の音楽を表現できること。予選のベートーヴェンはうまくできたかなと思っています。

③良いアーティストになって、自分の音楽で人々の心を癒したいです。

20 アレクサンドル・クリチコさん
ロシア 2000年生まれ



①仙台や浜松のピアノコンクールのことは知っていて、日本のコンクールに出てみたいと思っていました。日本の文化にも触れてみたかったということもあります。初来日は東京でのコンサート出演で、今回は2回目の来日です。

②エネルギーで情熱的でありながらも、ステージ上では常に誠実に、紳士でいることです。聴衆には私の音楽に対する熱意を感じ取っていただきたいと思っています。

③私の演奏を聴いたすべての方々の心に、私の音楽の印象が残るような音楽家を目指したい。

☆4か月前にお子さんが誕生したそうで、予選1曲目シューマンの「子供の情景」では特に第12曲「眠っている子供」のパートは思い出があったとのことでした。

36 島多 璃音さん
日本 2001年生まれ



①モーツァルトの協奏曲を集中的に弾くことができるのが魅力でした。予選でリゲティの曲を入れた理由は、師事している先生が現代音楽を専門にしていることと、自己紹介を兼ねてバロックから古典、現代曲まで聴いてもらいたいという意図からです。

②毎回の演奏に発見があり、自由さがあるということを中心に演奏するようにしています。ピアノや会場が違えば音も変わりますが、異なった環境と会話しながら弾きたいと思っています。

③全てのジャンルの曲を正統的な理解をしたうえで弾けるようになりたいです。

42 エリザヴェータ・ウクラインスカヤさん
ロシア 1996年生まれ



①まずは日本に来たかったからで、宮崎駿の世界に興味がありました。また3つの協奏曲をオーケストラと演奏できるからです。

②ステージの上で正直でいることと、自分自身が退屈しないような演奏をすること。

③音楽での目標は、たくさん協奏曲を演奏したいです。人生全般で言えば、映画「PERFECT DAYS」の主人公のように全ての瞬間を楽しみたいです。

41 ウ・チュンラムさん
香港 2002年生まれ



①SIMCは有名なコンクールだったから。日本が好きなのもあり、来ることができて興奮しています。

②繊細さ、そして音楽とその作品の意味に対して、真剣に向き合うところ。

③コンサートピアニストになること、そして若い人たちに教えることもしたいです。

30 小野寺 拓真さん
日本 2005年生まれ



①SIMCは大きなコンクールなのでいつも出たいと思っています。前回出場した時はホールでの音のバランス等が気になりましたが、今回はその反省を生かしました。

②予選の演奏は少し慎重になりましたが、本来の私は思い切って変化に富んだ音色で演奏するところでした。

③今は本番でどうすれば良い演奏ができるのかばかり考えています。もっと良い演奏をしたい、それだけです。

02 ペ・ジヌさん
韓国 2001年生まれ



①このコンクールは先輩ピアニスト達から聞いていました。さらに、私の先生のイ・チンサンは、第1回SIMCの第2位で、コンクールのことも聞いていました。

②演奏ごとに雰囲気や息遣いを変えて演奏するところです。呼吸に意識を向けるので、演奏後はとても疲れます。今日の演奏もタフで疲れました。

③音楽を通じて世界が平和になるよう活動していきたいです。

28 森永 冬香さん
日本 2002年生まれ



①身近な先輩たちが出場した時、その演奏への"憧れ"が、自分の出場動機です。それによりモチベーションを高めてきました。

②本番では練習にはない心持ちで臨んでいて、思い切りの良さを意識的に出すことで個性を演出し、そしてそれを強みとしたいです。

③伸びしろを見つけ、先生方に教えていただきながらコンサート演奏の機会が増えていくことで、いっそう気持ちを大きく持って進んでいきたいです。

21 ラファエル・キリチェンコさん
ポルトガル/ウクライナ 1996年生まれ



①日本が好きだからということが大きな理由のひとつですが、ハイレベルなコンクールで、審査委員も重要な音楽家で、尊敬している人たちだから。

②響きの操作と、常に新しいことを作品から見つけ出そうとする創造性。演奏するときはピアノ直接の音を聴くのではなく、離れた客席で聴こえる音をイメージして演奏するようにしています。

③いつかは教育に関わって、教えることをしたいです。でもそれが最終目標というわけではなく、ただ自分らしくありたいと思っています。

10 ユリアン・ガストさん
ドイツ 1999年生まれ



①若い音楽家の間で有名なコンクールなので、出場するのは嬉しいことです。また、3つの協奏曲を弾くことができるのも魅力です。日本に来るのは初めてなので楽しみにしていました。

②自分の中に自発的に生まれてくるものを大切にしています。また音についてよく考え、曲の中にあるストーリーを聴衆に伝えるようにしています。予選で弾いたメンデルスゾーンについては深く勉強し、とても身近に感じています。

③コンサートで演奏したり、室内楽でほかの方と共演したり、すべてのことが音楽に繋がっていくと考えています。また教える仕事もしてみたいと思っています。